

1. 内政

▼大統領選挙(16日)に向けた動き

・4日、ルプ大統領代行(民主党党首)は、大統領選出失敗を避けるため、選挙実施の際は誰に票を投じたか自己申告するよう各議員に要請する旨発言。

・5日、ギンブ自由党党首は、与党連合「欧州統合のための同盟」(AEL)議員以外にもルプ大統領代行を支持する議員がいる旨発言、一方、大統領選出に失敗した際に自由党はAEL結成の合意を破棄するとし、全てのAEL議員にルプ大統領代行を支持するよう要求。

・8日、AEL各党は、ルプ大統領代行の大統領選挙への立候補を支持する署名を行う旨表明。一方、ストリレツ自由民主党議会会派代表は、同党が大統領選挙において同大統領代行を支持するか否かは定かではない旨発言。

・8日、ヴォローニン共産党党首は、共産党が独自の大統領候補を今後推薦する可能性は排除されない旨発言。

・8日、ドドン元共産党議員(前第一副首相兼経済・貿易相)は、AEL推薦による大統領候補は支持しない旨再度表明、第1回選挙で大統領選出に失敗した際は、第2回選挙に向けグレチャニ前首相を大統領候補に擁立する旨発言。

2. 経済

▼貿易

・5日、EUは、経済成長及び投資促進を目的としたモルドバとDCFTA(深化した包括的自由貿易交渉)を開始する旨発表。同交渉はEUとのより緊密な経済統合を達成するための広い範囲の貿易と経済問題を扱うことを意図しており、最初の交渉が2012年1月開始予定。デ・グフト貿易担当欧州委員は、DCFTAによりモルドバはEU市場の恩恵を受けることとなる旨発言。

3. 外政

▼フィラト首相とアザーロフ・ウクライナ首相の電話会談

・5日、フィラト首相は、アザーロフ首相と電話会談を実施。ウクライナ入国に際しモルドバ国民にこれまで必要とされていた所持金証明が不要になったことに謝意を表明。両首相は、二国間関係に関し、経済協力に関する政府間協議が再開されたことを歓迎する旨述べ、両国間が友好と善隣の精神に基づき更に発展することを祈念することを確認。

▼フィラト首相の欧州人民党大会出席(マルセイユ)

・7、8両日、フィラト首相は、マルセイユにおいて開催された欧州人民党(EPP)大会に出席、ブゼク欧州議会議長、ボ

ック・ルーマニア首相、トウスク・ポーランド首相、カタイネン・フィンランド首相、サーカシヴィリ・グルジア大統領他とモルドバ・EU関係に関し意見交換。フィラト首相は、各国首脳に対し、モルドバの民主化と経済発展に対する支援に謝意を表明、かかる支援のおかげでEUとのDCFTA開始に至った旨発言。これに対し、各国首脳は、モルドバのEU基準に向けた努力を賞賛、ブゼク欧州議会議長は、モルドバに対する約6,400万ユーロの資金協力は、EUとモルドバの特別な関係を表す証である旨発言。

▼レアンカ副首相兼外務・欧州統合相のOSCE外相理事会出席

・6、7両日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、リトアニアのビリニウスにて開催されたOSCE外相理事会に出席、リトアニア、オーストラリア、ルクセンブルグ、セルビア及びブラチア外相とバイ会談を実施。セルビア外相との懇談では、モルドバ・セルビア両国の欧州統合プロセスにおける相互協力に関し協議。

4. 治ドニエストル

▼レアンカ副首相兼外務・欧州統合相のOSCE外相理事会での演説

・6、7両日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、リトアニアのビリニウスにて開催されたOSCE外相理事会で演説。治ドニエストル問題に関し、パートナー国の努力等により「5+2」者フォーマット会合が再開されたことを歓迎する旨、また、同問題はモルドバの主権及び領土一体性の原則に基づき解決すべき旨発言。

▼「大統領」選挙の実施(11日)

・9日、治ドニエストル「中央選挙管理委員会」は、「大統領」選挙における有権者は40万4,844名であるとし、同選挙の暫定結果を12日午前に発表する旨発表。

・11日8～20時に「大統領」選挙が実施。「中央選挙管理委員会」は、全体の投票率は56.65%であった旨発表。

・12日、「中央選挙管理委員会」は、同選挙の暫定結果の発表を延期する旨発表。同日、スミルノフ「大統領」は、多数の不正が犯されたとして選挙のやり直しを要求。チュフネンコ「中央選挙管理委員会委員」は、同審議結果を14日に発表する旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。(了)